

## 乳幼児の社会性のつまずきに関する研究

研究分担者 黒田 美保（広島修道大学健康科学部）

### 研究要旨

社会性のつまずきを調べるスクリーニング・ツールの開発に向けて、海外の最新のアセスメント・ツールおよび、健診で把握された社会性のつまずきに対する効果的な介入方法についても、調査を行った。その結果、アセスメント・ツールとして、現在スクリーニング・ツールとして1歳6か月健診で使われているM-CHATに加えて、BOSCC（brief observation of social communication change）などの採用も考えられる。さらに専門機関では、ADOS-2（Autism Diagnostic Observation Schedule-Second version：自閉症診断的観察尺度第2版）の実施によって、社会性の発達を詳細に調べることが望まれる。介入としては、コミュニティーベースのJASPER（Joint Attention, Symbolic Play, Engagement, and Regulation）プログラムが考慮すべきと考えられた。

### A. 研究目的

疫学的、医療経済学的な視点にたつて、乳幼児健康診査において社会性のつまずきを把握するのに有効なスクリーニング・ツールや介入方法を開発することを最終目的とするが、本研究では、社会性のつまずきを調べるスクリーニング・ツールの開発に向けて、海外の最新のアセスメント・ツールについて調査を行う。また、健診で把握された社会性のつまずきに対する効果的な介入方法についても、調査を行う。

### B. 研究方法

アメリカにおける乳幼児の社会性のつまずきを調べる検査の検討を行うため、カリフォルニア大学サンフランシスコ校 STAR Center for ASD & NDDs のアセスメント研修に参加した。そこで、最新のアセスメント・ツールの情報及びその実施法を収集した。また、社会性のつまずきに対して早期介入を行っている研究機関であるカリフォルニア大学ロサンゼルス校の Kasari 博士の研究室を訪問し、介入方法と同時に使用している社会性を調べるアセスメント・ツールについても調査を行った。

（倫理面への配慮）

本研究においては、アセスメントや介入法の現地調査が中心で、研究参加者がいないため倫理的配慮は必要ないが、訪問施設において視察した個別ケースについての秘密は厳守する。

・ADOS 2 : Autism Diagnostic Observation Schedule-Second version（自閉症診断的観察尺度第2版）は、自閉スペクトラム症の診断・評価ツールとして世界的にゴールド・スタンダードといわれている。診断用ではあるが、行動の直接観察により社会性やコミュニケーション

### C. 研究結果

乳幼児の社会性のつまずきを調べるアセスメントとして、今回以下のアセスメント・ツールについて詳細に内容を調べることができると同時に日本での応用が可能だと考えられた。

・ADOS 2 : Autism Diagnostic Observation Schedule-Second version（自閉症診断的観察尺度第2版）は、自閉スペクトラム症の診断・評価ツールとして世界的にゴールド・スタンダードといわれている。診断用ではあるが、行動の直接観察により社会性やコミュニケーション

ンの特性を詳細に調べることができる。実施時間は40～60分である。生後12か月から使用可能である。2015年に日本版も刊行されている。

・BOSCC (brief observation of social communication change)：社会性やコミュニケーションに関わる行動特徴を調べる検査である。特にこうした行動特徴の微妙な変化を把握することができる。ADOS-2を応用して作られたもので、対象は、12ヵ月以上である。実施時間は10分と短い。実施方法もADOSに比べ容易で心理士以外でも実施できる。

介入方法については、Kasari博士の開発したJASPER (Joint Attention, Symbolic Play, Engagement, and Regulation) プログラムが介入効果や保育園での実施も可能な点で、医療経済的効果も高いと考えられた。JASPERプログラムは、1歳台の乳幼児から小学生まで連続的に使用でき、その効果が示されている<sup>1)</sup>。しかも保育園や小学校の集団の中で教師が社会性につまずきのある子どもに実施したり、家庭で親が子どもへ実施したりすることにより、心理士が実施するのと同じ介入効果があるという報告をしている<sup>2)</sup>。実際の視察や実習においても、子どもの介入方法がわかりやすく、ビデオで示された子どもの行動の様子から、その社会性の変化が明らかだった。

#### D. 考察

実際の視察においても、子どもへの介入方法がわかりやすく、専門機関における心理士による介入ももちろん効果が期待できるが、保育所や幼稚園など子どもの生活の場での保育士・幼稚園教諭による実施が期待される。

#### E. 結論

社会性につまずきを調べるスクリーニン

グ・ツールの開発に向けて、海外の最新のアセスメント・ツールおよび、健診で把握された社会性につまずきに対する効果的な介入方法についても、調査を行った。その結果、アセスメント・ツールとして、現在スクリーニング・ツールとして1歳6か月健診で使われているM-CHATに加えて、BOSCCなどの採用も考えられる。さらに専門機関では、ADOS-2の実施によって、社会性の発達を詳細に調べることが望まれる。アセスメント・ツールとして、BOSCCのように短時間で実施できるものの導入がのぞまれる。また、BOSCCは、1歳～2歳児に適したアセスメントであったので、現在有効なスクリーニング・ツールのない3歳児健診に使えるスクリーニング・ツールを開発する必要があると考えられる。

#### 【参考文献】

- 1) Kasari, C., Kaiser, A., Goods, K., Nietfeld, J., Mathy, P., Landa, R., Murphy, S., & Almirall, D. (2014). Communication interventions for minimally verbal children with autism: Sequential multiple assignment randomized trial. *Journal of American Academic Child and Adolescent Psychiatry*, 53(6), 635-646.
- 2) Chang, Y. C., Shire, S. Y., Shih, W., Gelfand, C., & Kasari, C. (2016). Preschool deployment of evidence-based social communication intervention: JASPER in the classroom. *Journal of autism and developmental disorders*, 46(6), 2211-2223.

#### F. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他 なし